

# 令和2年度第2回庄原市「学びの变革」推進協議会

令和2年10月30日（金） 庄原市総合体育館

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

## 【講話・演習】「指導と評価の一体化を目指した授業づくり」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



- 庄原市立西城中学校の総合的な学習の時間の授業ビデオを基に、生徒の姿及び指導者の手立てについて、グループ協議を行った。
- 評価については、指導に生かす評価と記録に残す評価を単元の中で精選しながら、計画的に行っていくことが大切である。
- 指導者は、単元のゴール、本時のゴールの具体的な児童生徒のめざす姿をイメージしておくことが大切であり、児童生徒に具体的な活動のゴールイメージがもてるような声かけや発問を、機会をとらえて行っていく必要がある。

### 【参加者の感想等】

- ◆西城中学校の実践を聞かせてもらい、具体的な生徒の姿から指導や評価について考えたり協議したりすることで、主体的な学びの姿についての参考とすることができた。
- ◆西城中学校の授業ビデオから、評価場面を精選することの大切さを改めて確認することができた。
- ◆授業改善を図るため、各単元でどのような力を付けるのか明確にしたい。指導と評価の一体化を目指すために、教材研究の進め方を協議していきたい。

## 【講話】「個別最適な学びについて」

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 小池 紘太郎



- 「個別最適な学び」の実現とは、児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じて、多様な学びの選択肢を提供することにより、全ての児童生徒が主体的に学び続けることができていることである。
- 「個別最適な学び」に必要な観点には、「マインドセット」「学びの環境」「学びの内容」「学びの進め方」等が挙げられている。
- 校務支援システム等を効果的に活用しながら、「チーム学校」として、子供たち一人一人の個に応じた学びを支えていくことが必要である。

### 【参加者の感想等】

- ◆「個別最適な学び」について選択肢と自己決定が大切であるということが分かった。「個別最適な学び」について学校全体で考えていきたいと感じた。また、多くの実践例について共有し自校ではどのようなことができるかを考えていきたい。
- ◆多様な生徒に応じた多様な学習方法を取り入れることは大切であることが分かった。その上で、生徒の実態に応じながら、いかに、主体的に学びようとする意欲を高めたり、その意欲を発揮する場を提供したりするかが大切だと感じた。

